

# 令和元年度第1回鹿児島市地域福祉計画推進委員会 会議録

1 日 時：令和元年8月26日（月）14：00～15：30

2 場 所：市民福祉プラザ中会議室

3 出席委員：高橋委員、園田美保委員、熊谷委員、園田希和子委員、今和泉委員、  
宮脇委員、北方委員、岡本委員、藤田委員、辛島委員、宮竹委員、  
吉國委員、斉野委員、田淵委員、吉永委員、米山委員、川元委員、  
坂尾委員、有村委員、中村委員、益山委員、城崎委員、泉尾委員 23名  
※オブザーバー：市社会福祉協議会地域福祉支援員5名

4 事務局：鹿児島市地域福祉課（4名）

## 5 会次第

1. 開会 （1）委員長あいさつ
2. 会議 （1）第4期地域福祉計画に関連する市の事業について  
（2）地区福祉推進会議における意見等
3. 閉会

## 6 会議

（1）第4期地域福祉計画に関連する市の事業について

### 事務局

資料1「第4期地域福祉計画に関連する市の事業」について説明

### 委員

資料の事業について、予算額と決算額、この項目に係る費用はいくらぐらいかかるのか、また、スクラップされた事業がわかると、費用対効果などわかりやすいと思う。

### 事務局

改善してまいりたい。

### 委員

2ページの事業、認知症介護の電話相談の設置で、認知症カフェは、市が開催していたものが民間開催になったという解釈でよろしいか。

### 事務局

29年度からは、市としては直接やっていない。

## 委員

まちなかで見かけていたカフェが無くなってしまっていることがあり、いわゆる予算をカットされて、民間化され、消えてしまったのかというところが気になっている。予算のせいなのか、それとも効果が見られなかったのか、そのあたりの理由、経緯がわかれば。

## 事務局

詳しいところがわからず、調べてご報告させていただきたい。

## 委員

避難所について、松元の松陽高校と石谷小学校の体育館は、和式トイレで車いすの使用ができない。また、他の避難所によっては、水道の使用を断られた所があると聞いている。

## 事務局

避難所を普段より倍ぐらいの数開けたこともあり、普段使っていない避難所を実際に使ってみたら、トイレが和式しかない、空調が必要などの意見があった。学校施設が多く、課題もあるが、教育委員会と協議していきたい。水道については、地域のみなさんが管理し、費用を負担している施設ということもあり、そのような話になったようだ。指定避難所としての役割を管理者の方々にも理解して頂き、例えば、水道を使用した分の費用を負担するなど、対応していく。

## 委員

16ページの温泉講座について、敬老パスの利用状況はどれくらいか。また、この講座は、温泉業者の委託か、市が開催するのか。

## 事務局

利用回数については、数字は持ち合わせていない。講座は市が直接開催するのではないかと  
思う。

※後日、長寿支援課に確認したところ、浴場組合に委託とのこと

## 委員

どちらが開催するにしても、地域と連携して、もっと参加させる体制を作るのが大事

## 委員

入浴回数を増やしてもらえないか。10月から入浴料が上がることを心配している。また、この温泉講座は、温泉内でするのか、外でするのか。

## 事務局

入浴回数については、ご意見を担当課に伝える。開催場所は、市内の銭湯を使うとのこと。

## 委員

18ページの児童クラブについて、整備を行いクラブ数は増えているようだが、指導員の先生が充足しているのかという問題がでてきているのではないかと聞いている。開設は指導員がやらないといけないようだが、補助員の先生は結構充足しているクラブもあると聞いているので、補助員でもクラブを開けられるようにするなど、開設要件の緩和を検討して頂けないか。

## 事務局

担当課に確認したい。

## 委員

児童クラブの役割と体制について、今回の大雨災害時に学校が休校になり、働いている両親は、子供をどうするかという問題があった。こういった事情をどう整理していくのか、福祉部門と教育委員会などで整理していく必要があると思う。

## 委員

心のバリアフリーという問題で、人権問題に関する正しい理解と認識、例えば差別問題は早急に解決すべきだと思うが、根本的な人権についての理解、認識が足りてないという前提がなく、長引いているのではないかと聞いている。

問題に対処するだけで、問題が起こることを防ぐことができない、また、「人権問題」というふうには、「問題」と書くことによって、問題がない自分たちには関係ない、縁遠いものということになりかねない。

## 委員

確かに「人権問題」「青少年問題」など問題という言葉がついているなと感じた。小・中学校では毎年、人権擁護委員の方を呼んで話をしてもらうなど実践されているので、子供達にその意識はあるのではないかと聞いている。

## 委員長

問題になるような事例について、これはいけないという話ではなく、その前提となる「人間としての権利」をしっかり教育すべきという話。

## 事務局

人権問題につきましては、確かにそういう側面があるので、関係部署と話をしたい。

## 委員

今年度から道徳教育が教科化され、同和教育や人権のことについて、保護者も一緒に研修を受けるなど、家庭と学校で取り組んでいる最中なので、ぜひ、サポートをお願いしたい。

児童クラブの件で、今回の大雨災害時に学校の休校の判断がとても早く、有り難かったが、休めない保護者もたくさんいた。ある地域では町内会の方たちが、子供たちを見ていたという所もあったので、事例を教えてください。

## 事務局

今回は8.6水害を超える大規模な災害が起きると想定されており、学校だけでなく職場も閉めるような災害になりうると考えていたので、本来なら児童クラブをどうするという話ではなく、職場も閉めるぐらいの、災害に対する心構えが必要だったのではないかと。今回は台風のようにいつ頃確実に来るというものではなく、また、地震のようにすぐに実感できるものでもなかったため、休む判断なども難しかったと思うが。

最終的には、避難する避難しないというのは、個人の判断が大事になってくる。安全を自分でどう守るか、考えていただく機会になったと思う。

## 委員長

次の地域福祉計画の策定の際は、避難についても時間をかけて議論する必要があると思う。好事例、典型事例みたいなものを示して、住民にとってわかりやすくする必要がある。

## 委員

避難所の水道が使えないなどは、基本的な規定を市で作成し、応分の負担は市がするようなものを作り上げていく必要がある。またこの会議では、質問に対して、担当者がいないのでわからないといったことが多く、きちんとした答えが返って来ない。

## 事務局

計画自体が幅広く、事務局としても把握できない部分が多いので、担当課の職員などに参加してもらうことも検討したい。

## 委員

21ページのゲートキーパーの養成について、自殺の危険性のサインというのは、態度に出てくるものか。

## 委員

成人で言えば、眠れなくなるのが一般的なサイン。子供に関しても眠れないことや、今までに楽しくやっていた部活などに急に興味をなくすというのは、自殺あるいはうつ病のサインになっている。

### (2) 地区福祉推進会議における意見等

## 事務局

資料2「地区福祉推進会議における意見等」について説明

## 委員

民生委員の人材掘り起こしと育成を図ることについて、民生委員の充足率の状況は。

また、新しい人材の掘り起こしと教育期間も必要になってくると思う。民生委員についても、いきなり引き継ぐのではなく、半年ぐらい教育期間があった方がいいのでは。

## 事務局

現時点で99%の充足率を達成している。人材不足のため、新たに民生委員になっていただくことが、難しくなっている。

## 委員

75歳定年の問題がある。75歳は、みんな元気に働いている。

## 委員

定年を延長すると充足率は上がると思うが、若手を育成していく面から言えばデメリットになり、一気に解決するのは難しい面がある。

## 委員

市がハザードマップを出しているが、どこまで読まれているのか。自分のこととして勉強をして、地域でこれを基にした研修会等をやればいい。最後は、自分で自分を守ることになる。

## 委員

避難所に、地区内に住む市職員が来てもらえれば、事情もわかるし、気軽に話しやすい。

## 事務局

避難所の数が190になり、3～4人の班員だけでは回せなくなったため、課と係に割り振った結果、全然違う所に住む職員が従事することになった。業務や職場との関係性を考えると、メリットデメリットがあるので、再度検討をしていきたい。

## 委員

町内会として、どこに避難所を開設し、危険を感じたら避難を早めにしなさいと広報をして回ったが、避難所に行っても個人情報の問題があり、誰が来ているか把握できない。町内会の手立てとしても把握をしていく必要があると思う。

## 委員長

民生委員の問題や災害支援、避難所のありかた、個人情報保護との関係なども出てきており、継続して議論する必要がある。

以上で、本日の会議を終了する。